

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

いろいろな人が一緒に生きている世の中では、人と人との間にきよがりがあります。「きよがりがあるからいやだ」と思っても、「ぜんぜん知らない人」はやっぱり「知らない人」で、世の中には「近づきたくない」と思う人だっています。

たとえば、あなたは一人で道を歩いています。そこに、知らない人が近づいてきます。まわりには、ほかに人がいません。ぜんぜん知らない人が近づいてきて、あなたにいきなり声をかけます。

「なにしてるの？ 一人なの？ 一緒にどっか行かない？」と言います。

なんだかへんな人です。「アブナイ人」である可能性は、とてもあります。①そんな時、あなたはどうしますか？

学校では、「大声を出して逃げろ」と教えられているかもしれませんが、もう小学生ではありません。「いきなり大声を出せ」と言われても、「そんな恥ずかしいことはできない」と思うかもしれません。もう小学生ではないあなたは、「もう小学生じゃないのだから、アブナイ人に声をかけられるなんてことはないんじゃないのか？」と思っていたりもします。②「一緒にどっか行かない？」と言われたあなたは、もしかしたら大声なんか出さずに、「え？」とか、「なアに？」とか、「やだ」とか言うかもしれません。そうになると、どうなるでしょう？

「え？」でも、「なアに？」でも、「やだ」でも、③そこには敬語がありません。あなたがその相手を、「いやなやつだな」と思っていて、「そんな相手に敬語を使いたくない」と思っていたとしても、「敬語がない」というのは、注タメ口ぐちなんです。つまりあなたは、見知らぬ、④かなりアブナイ可能性のある人にたいして、「自分のよく知っている仲間」のような口のきき方をしてしまったのです。

それは、とても危険なことです。あなたのしたことは、いきなりタメ口で話しかけてきた、見知らぬ危険な相手にたいして、「あっちへ行け」ではなくて、「そのままそばにいてもいいよ、もっと近くに来てもいいよ」と言ってしまったのと同じなのです。

敬語というのは、「人と人との間にはきよがりがある」ということを前提にした言葉です。「ていねいの敬語」は、「きよがりがあるけ

ど、この人との間のきよりを近くしたい」と思う時に使う言葉でもありますが、「この人とは、きよりを置きたい」という時に使う言葉でもありません。なんでも言いますが、「きよりがある」ということと、「好き嫌い」は関係がないのです。

だから、見知らぬ人からいきなりタメ口で声をかけられたら、「なんですか？」と答えなければなりません。「です」という言いねいの敬語は、「あなたと私の間にはきよりがある」ということを、相手に伝えているのです。それは、「近くに来るな」ということとで、「もしその警告を無視したら、大声を出すぞ」という、警戒警報の意味^⑤さえも持っているのです。「もう小学生じゃないから、いきなり大声を出すなんて恥ずかしい」と思っているあなたなら、そうして相手のようすを見て、「危険だったら大声を出す」という用意を整えなければいけないのです。敬語には、そういう使い方もあるのです。

敬語の話になると、むずかしい漢字がいっぱい出てきます。いきなり「尊敬の敬語」で、「けんじょうの敬語」に「ていねいの敬語」です。「尊敬」はわかります。「謙讓」^{けんじょう}は、ちよつとわかりにくい考え方ですが、「わかりにくい考え方だから、こんなむずかしい漢字を使うんだな」ということはわかります。よくわからないのが、「ていねい」です。「ていねい」は、そんなにむずかしい考え方ではありません。それなのに、漢字で書くと、なんで「丁寧」^{ていねい}などというわけのわからない漢字になるのでしょうか。いったい「ていねい」とはどういうことなのでしょう？

「丁寧」は、ちよつと大きな漢和辞典でしらべると、わけのわからないことが書いてあります。「大昔の中国で、兵士の宿舎にあった楽器」だということです。ポーンと鳴らすドラのようなものを想像してください。^⑥その楽器に、「丁寧」の文字が書いてあったのです。「丁」というのは、この場合、兵士のことです。「寧」というのは、「安心できる」ということで、「丁寧」は「兵士の安心」なのです。兵士が安心できるように、そう書いてある楽器を、ポーンと鳴らすのです。^⑦、なんだかへんです。こんなものを鳴らしてすごく大きな音がしたら、「安心できる」ではなくて、うるさいだけでしよう。どうしてそれが、「兵士の安心」になるのでしょうか？

兵士は、戦争のためにいます。敵がせめてくることを、いつも考えています。そういう兵士たちにとって、「安心」とはどんなことでしょうか？ 敵がせめてこないのがいちばん安心であるのはもちろんですが、でも、敵はせめてきてしまうのです。「いつ敵がせ

めてくるのかわからない」とビクビクしていたら、兵士たちはおちつきません。ところが、「丁寧^{ていねい}」という楽器は、「敵がせめてきたぞ！ 危険があるぞ！」という時に鳴らす楽器なのです。つまり、非常警報なのです。

「非常警報が人の安心につながる」——これが「ていねい」なのです。だから、アブナイ人にタメ口で話しかけられて、「その手なのか」と思つて、「なんですか？」というていねいの敬語を使うのは、「ていねい」のいちばん根本的な使い方なのです。

人と人との間には、いろんなきよりがあります。近くても「きより」で、遠くても「きより」です。だから「きよりがあるからいやだ」と考えるのではなくて、「そのきよりをどうするのか？」と考えるのです。

いちばん近い人には、「きより」がなくてもいいような「ひとりごとの言葉」——タメ口でもだいじょうぶです。「ちよつときよりがあるな」と思つたら、「ていねいの敬語」です。「ちよつと」どころではなくて、「すぐきよりがあるな」と思つて、それが「ていねいの敬語では役に立たないくらい遠い」と思つてしまつたら、「尊敬の敬語」や「けんじょうの敬語」を使います。⑧現代の敬語は、そのような使い方をするものなのです。

世の中にはいろんな人がいて、その人たちとの間には、それぞれ「いろんなきより」があるのです。だから、そういう世の中でちゃんと生きていって、自分の考えをつたえるためには、その人たちとちゃんと話ができるように、「敬語」というものを知っておく必要があるのです。

注 タメ口・・・若者言葉で、相手と対等の立場でものを言うこと。

『ちゃんと話すための敬語の本』橋本治

問一 — 部①「そんな時、あなたはどうしますか？」とあるが、筆者は何と答えるべきだと考えているか。文中から十字以内でぬき出しなさい。(句読点や記号は字数に入れます。)

問二 — 部②・④・⑦に当てはまる言葉を次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。(同じ記号を二回用いてはいけません。)

ア しかも イ さて ウ だから エ でも

問三 — 部③「そこには敬語がありません」とあるが、筆者は「敬語」をどのような言葉だと考えているか。文中から三十字以内でぬき出しなさい。(句読点や記号は字数に入れます。)

問四 — 部⑤「さえ」と同じ働きをしているものを、次のア〜エの……部の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大人でさえさっぱり分らない。

イ 明日食べるだけのお金さえあればいいと思う。

ウ 計画さえ立てることができれば問題はない。

エ 雨ばかりか、風さえ吹きはじめた。

問五 — 部⑥「その楽器に、『丁寧』の文字が書いてあったのです」とあるが、「丁寧」という楽器はどういう時に使われる楽器か。文中の言葉を使って、十字以内で書きなさい。(句読点や記号は字数に入れます。)

問六 — 部⑧「現代の敬語は、そのような使い方をするものなのです」とあるが、「そのような使い方」とはどのようなことを指すか。文中の言葉を使って、八十字以内で書きなさい。(句読点や記号は字数に入れます。)

問七

本文の内容と合うものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア いろいろな人たちとタメ口ばかりで話していると、その人たちとの間の「きより」が遠くなってしまう。
- イ 他人からいい印象を持ってもらうために、きちんと「敬語」を知っておくべきだ。
- ウ 世の中にはいろいろな人がいるから、少しでも相手との「きより」をなくしていかなければならない。
- エ 人との間の「きより」を意識して、使い分けられるように「敬語」を知っておくべきだ。

このページには問題はありません

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈中学二年生の後藤明良が所属するバスケット部は弱小チームで、チームメイトにやる気や向上心がないことに、明良は疑問を感じていた。そこに毎年のように全国大会に出場している学校から、小杉が転校してくる。小杉のために新しいコーチもむかえられたが、コーチは明良と小杉だけをひいきし、他のメンバーにはアドバイスも与えなかった。コーチに馬鹿にされた吉田は怒りを爆発させる。〉

怒りがおさまって、吉田がようやく落ち着きをとりもどしたところだった。

メンバーは、一年もふくめて全員が吉田を囲むようにして座りこんでいた。そうすることで、吉田の気持ちを理解しているという意思表示をしているつもりだった。

そんな友情ごっこにつきあいながら、明良はあきれけるのを通り越して、怒りに近い感情を胸でくすぶらせていた。

もちろん、コーチの態度はよくない。だけど、そんな態度をとらせているのが自分たちだと、どうしてだれも気づかないのか。どうしても勝りたい、だから徹底的にしごいてくださいという態度でのぞめば、コーチだって本気で指導してくれるはずなのだ。コーチの態度がくやしかったら、キレルんじゃないかと、プレイで見返してやればいいのに、どうしてだれも①そういう発想をしないのか。

「小杉くん、帰るのかよお」

ひとり体育館をでいこうとする小杉に、和田が不満そうな声をあげる。

「あのコーチ、小杉くんのために、呼ばれてるんだけどなあ。オレたちだけなら、コーチはこなかったわけだしさあ」

谷口が、大声でぼやいてみせる。だけど小杉は、なにもいわずに②そのまま体育館をでていってしまった。

「あら、いっちゃったわ」

久野が、場を③とするかのように、おどけた声をあげたけど、そのあと全員が不満そうなため息をついているのを見て、明良はだれよりも深くため息をついた。

どうして、小杉がきたことを、チャンスだと思わない？どうして、小杉のおかげでバスケットを知りつくしているコーチがきてくれたと思わない？

注1 愛想をつかされて当然だと思った。小杉が、こんな生ぬるい友情ごっこにつきあうわけないのだ。

「なんだよ、あいつ……」

しかし吉田は、ため息程度ではおさまらなかった。

「調子にのってんじやねーよ」

やっと静まった怒りに再び火がついたかと、一瞬みんなに緊張が走る。

「いいよ、放っておこうよ」

すると、真野が明るい声でいった。そして、吉田の肩に手を置くと、顔をのぞきこんで続けた。

「仲間割れしたって、いいことないだろ？」

あきれるでもなく、怒るでもない真野の言葉に、④だれもがホッとしているのがわかった。

そんな真野の気持ちにこたえるように、吉田はそれ以上なにもいわなかった。うつむいて、クツとくちびるをかんで、怒りをおさえている。だけど、今度は和田の我慢がきかなかった。

「あれが、仲間なのかなあ」

もう、限界だった。

こんな⑤友情ごっこに、つきあってられるか！

明良は、おもわず立ち上がった。

「後藤？」

真野が、心配そうに明良を見上げる。

「てめえら、いい加減にしるよ！悪いのは、おまえらじゃないか。やる気がないなら、強くなりたいと思わないなら、バスケット部なんてやめろ！^{注2} 雑魚ざこのくせに、真剣しんけんにやりたいオレや小杉のじゃますんじゃねーよ！」

とつさに浮うかんだ^⑥本音は、だけど、声にはならなかった。

そして気がつくとき、明良はおだやかな口調でこういつていた。

「オレ、ちよっと、小杉と話してみるよ」

急ぎ足で歩きだす自分を、みんなが目で追いかけているのがわかった。だけど明良は、本音を見やぶられていないか不安で、だれとも目をあわせることができなかった。

「キャプテン、よろしく！」

体育館をでるとき、唯一ゆいいつ真野が、声をかけてくれた。ちらりと見ると、期待に満ちた目で手を上げている。明良は小さくうなずくとかけた。

心臓がばくばくしていた。

おもわずキレそうになった自分にどぎまぎしていた。あんなこといったら、今までうまくやってきた努力が、水の泡あわだ。

明良は歩調をゆるめると、しみじみと^{注3}安堵あんじょのため息をついた。

しかし、もう、我慢がまんの限界がきていることもわかっていった。

だって、本当なら自分は小杉側の人間なのだ。

コートに選ばれた、大きな可能性を秘めたプレイヤーなのだ。

もう、身体からだならし程度じゃ満足できない。思いっきり練習して、うまくなって、試合に勝つ快感を味わいたい。それが、小杉とならのできるのだ。

⑦ 小杉となら……。

注1 愛想をつかされて・・・すっかりいやになられて。

注2 雑魚・・・ここでは、実力のない者。

注3 安堵の・・・安心して。

問一 — 部①「そういう発想」とは、どのような発想か。文中の言葉を使って四十字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れま
す。)

問二 — 部②「そのまま」と同じ働きをしているものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア お父さんそのままの顔立ちである赤ちゃん。 イ カバンを投げだすとそのまま遊びに行った。

ウ 出したものをそのままにしてはいけない。 エ 聞いた話をそのまま友だちに話す。

問三 部③に当てはまる最も適当な言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ごまかそう イ しずめよう ウ しらせせよう エ なごませよう

問四 — 部④「だれもがホツとしている」理由として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 吉田と小杉とがけんかをせずにすむと思ったから。

イ 友だちを思いやることができる真野を見直したから。

ウ わがままな小杉を仲間に入れることはないと思ったから。

エ 真野の冷たい一言で、吉田が落ち着きを取りもどしたから。

問五 — 部⑤「友情ごっこ」とあるが、「明良」はなぜ「友情ごっこ」だと感じているのか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 友だちであれば相手を思いやるべきなのに、小杉を仲間はずれにしようとしているから。

イ 部活にまじめに取り組もうともせずに、不満ばかり言って高めあうことをしないから。

ウ 自分の仲間はバスケットの上手な小杉だけで、バスケットの下手な他の部員は真の仲間ではないから。

エ 本当はみんな小杉と仲良くしたいはずなのに、だれも小杉を追いかけようとしなから。

問六 — 部⑥「本音」とあるが、「明良」の本当の気持ちを文中の言葉を使って六十文字以内で書きなさい。（句読点は字数に入れません。）

問七 — 部⑦「小杉となら……」とあるが、「明良」は「小杉」とならどういうことができると考えているのか。文中の言葉を使って三十五文字以内で書きなさい。（句読点は字数に入れません。）

問八 次の中で本文の内容に合うものには○、合わないものには×を付けなさい。

ア 明良と小杉だけが大きな可能性を秘めたプレイヤーとして、コーチに認められていた。

イ キャプテンである明良は真野に頼りにされたため、小杉と話し合うことを決意した。

ウ 明良はチームのみんなが小杉ばかりに注目するので、いらだちをおぼえていた。

エ 真野は小杉を仲間だと思っているが、和田は小杉を仲間と認めていないところがある。

このページには問題はありません

三 次の各問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤には、まちがって使われている漢字がある。例にならって、解答らんの上にまちがった漢字を、下に正しい漢字を書きなさい。

(例) 心蔵の病気になる。 (答) 蔵↓臟

- ① 駅前の百科店で、家具と食器を買う。
- ② 近所の図書館で、新聞と週間誌を読む。
- ③ 展覧会での絵画についての感想を手張に書く。
- ④ 旅館の窓を開けると、機笛がきこえてきた。
- ⑤ 地下街の食堂で、魚料理と果物を注問する。

問二 次の□部1～5それぞれに漢字一字を入れて、矢印の方向に読み、漢字二字の言葉を完成させ、例にならって書きなさい。

例 混 ↓ □ ↓ 体 (答) 合

